

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学	分野	看護学
学籍番号		院生氏名	松谷弘子
通学キャンパス			
論文題目	小児専門病院における看護師の離職の影響要因		
審査結果(枠で囲む)	合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 研究概要</p> <p>1) 研究の概要</p> <p>研究の意義：小児医療の高度・複雑化、入院期間の短縮化等の中で、看護の質の向上が必要である。 研究目的：小児専門病院における看護師の離職防止を意図し、離職の影響要因を明らかにする。 方法：本研究は無記名自記式質問紙を用いた横断研究である。対象は、小児専門病院 11 施設に勤務する看護師を対象とした。調査項目は、看護師の心理的負担、バーンアウト、ワークライフバランス、チーム連携、職場環境等 94 項目だった。調査実施年度の末に、対象施設看護部長に対象者の離職の有無を確認し「離職群」「非離職群」の 2 群に分けて、分析を行った。 結果・考察：小児看護師の離職の影響要因について、研究概念モデルに示した「小児専門病院看護師の心理的負担」「バーンアウト」を説明変数の中心におき、分析を行った。心理的負担に関しては、因子分析の結果 4 因子が抽出された。バーンアウトも離職の影響要因であったが、心理的負担とバーンアウトの関連も見られたことから、これら 2 つの要因の関連を意識しながら、離職防止対策を図る必要性が示唆された。</p> <p>2) 本研究は、適切に倫理的配慮がなされていた。</p> <p>3) 知見の新規性と価値</p> <p>本研究は、小児専門病院の看護師の離職に焦点をあて、その影響要因に「心理的負担」と「バーンアウト」が影響しているとの仮説のもと実施しており、新規性がみられた。また、質問紙調査協力者の年度末の離職の有無を確認し、それに基づき 2 群に分けて分析したところは、独自性が認められた。</p> <p>2. 審査経過</p> <p>審査会は 3 回開催したが、当初論文の一貫性が乏しく、大幅な修正の必要性を指摘したが、審査の機会を重ねるごとに修正が進み、博士論文としての質は確保できたと考える。</p> <p>3. 口頭試問の結果</p> <p>口頭試問において、当初は回答があいまいであった点も見られたが、博士論文として求められているものを理解した後は、適切な回答が見られた。</p> <p>4. 審査結果</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(看護学)の学位を授与するにふさわしいものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主査	野呂 千鶴子	
	副査	池田 俊也	
	副査	坪倉 繁美	